



Title	＜書評＞『古武術の発見』：日本人にとって「身体」とは何か（養老孟司 甲野善紀著，光文社，770円）
Author(s)	江口， 晋
Citation	大阪公衆衛生. 1994, 65, p. 13-13
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83813
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『古武術の発見』

－日本人にとって「身体」とは何か－

養老孟司 甲野善紀著

光文社 770円

保健所で最近子供の歯のディスクレパンシー
いわゆる歯と顎の不調和の問題や、(私も太っ
ているが)子供の肥満の問題など、変化する
子供の状況について見聞きする事が多く、一
[全く別の領域(少年非行など)からは、い
じめ、自殺、不登校など主に心の問題という
形で子供の問題を聞きながら、人の心と身体
というテーマに大変興味を持っていた時に、
とある会合で旧知の精神科医からこの本を紹介
されたものである。折しもNHKで養老先生の解説で「脳と心」という番組が放映され、
週刊読売の12月5日号で冒頭カラーページで
甲野先生が古武術研究家として紹介されてい
たのを読み、おもしろい著者のくみ合わせだ
と思ったものである。

この本は対話という形で書かれているが人
の身体と心を考えるうえでのいくつかのポイ
ントを示しているように思う。一、日本人は
歴史の中で身体についてどう考えて来たのか。
二、身体と心との関係 三、言葉によらない
コミュニケーションについて 四、知覚と運
動との関係 以上四つである。

保健所で出産を前にした親に話をしている
中で、心と身体との関係、また文化の伝承と
言うのは、西洋的な言葉にならないものは他
人に伝えられないといった経験科学的な考え
方だけではしっくりこない、思いだしてい
た自分の気持ちの整理に、この本は多くの示
唆を与えてくれたものである。昨今医学や福
祉の分野で従来の非言語的伝承を含んだ徒弟
奉公的「術」の伝承が崩れ出す中で、復古的
権威主義的ではなく新たな「術」の伝達の回

路を創造していかなくとはと心配しているの
は、私だけではないだろう。

(大阪府東大阪子ども家庭センター 江口 晋)